

平成29年度

自己評価報告書

平成30年5月

学校法人英智学園
専門学校日本デザイナー芸術学院仙台校

学校の現況

1、学校名

学校法人英智学園 専門学校日本デザイナー芸術学院仙台校

2、所在地

宮城県仙台市若林区新寺三丁目2-1

3、沿革

- 1978年 日本デザイナー学院仙台校、日本ビジネススクール仙台校設立
- 1983年 専修学校認可に伴い専門学校日本ビジネススクール仙台校デザイン学科に改称
初代校長 一力博子 就任
- 1991年 新寺校舎完成
- 1994年 専門士認可
- 1998年 学校法人英智学園設立
第二代校長 塩田長和 就任
- 2006年 第三代校長 村上克巳 就任
- 2007年 専門学校日本デザイナー芸術学院仙台校に校名変更
- 2019年 専門学校日本デザイナー芸術学院に校名変更(予定)

4、学科の構成

文化教養専門課程
デザイン芸術学科

設立主旨

1970年代、日本の高度経済成長が東北地方・宮城県・仙台市にも及ぶとともに、産業界において実務スペシャリストの人材育成のための職業教育の必要性が急激に高まりました。学園では、その要望に応じて同圏内企業と学識経験者の協力のもと、1978年4月に仙台市内に職業教育機関として、日本ビジネススクール仙台校を創立いたしました。

学園では、斯界のプロフェッショナルを講師に迎え、産業界が必要とする職業能力(知識と技術)を備えた人材を育成。多くの卒業生を社会に輩出し、今日に至っております。

教育目的

企業や業界が求める専門知識や技術を短期間に修得させることを主眼とし、「少人数制」「現役のプロ講師」「実践教育」をコンセプトとした教育システムにより「即戦力となる人材」を育成する事を目的とする。

各科における目標

- **マンガプロデビュー科**

マンガ制作の技術を磨き、自主的な出版社への持込みを繰り返し、連載に向けてスピード・クオリティを高めた「プロ意識を身に付けた在学中の担当付き・デビュー漫画家」を目指します。

- **マンガベーシック科**

プロット・ネーム・コマ割り・作画等のマンガ制作に必要な技術を基礎から総合的に学び、持込み投稿用のオリジナルマンガを制作し「担当付き・デビュー漫画家」を目指します。

- **コミックイラスト科**

人物・背景効果・アイテムなどのアナログ表現と各種ペイントソフトを使用したデジタルテクニックを学び、販売会等のイベントを繰り返し「読者を惹き付ける表現ができるイラストレーター」を目指します。

- **アニメキャラクター科**

歩き・走り・振り向き等のアナログ作画・デジタル動画やキャラクター制作を学び、デッサンを繰り返すことで基礎画力を向上させ「総合的な技術を持ったアニメーター／2Dキャラクターデザイナー」を目指します。

- **グラフィックデザイン科**

レイアウト／色彩表現／各種編集ソフトの使い方を学び、実践を通して発想力／コミュニケーション能力／スピード・正確性を身に付け「情報を発信できるデザイナー」を目指します。

- **イラストレーション科**

色鉛筆／水彩・アクリル絵具／パステル／コピック等を使用した多彩な表現方法や、各種編集ソフトの使い方を学び、広告制作の知識を身に付けた「独自の世界観を持つイラストレーター」を目指します。

- **雑貨デザイン科**

様々な素材を使用した雑貨やアクセサリの制作技術を学び、ショップ・イベントやインターネットでのオリジナル商品の販売を通して「ニーズを意識した商品の制作・販売を手がけるクリエイター」を目指します。

- **写真映像科**

フィルムカメラ／デジタルカメラの基礎、環境に合わせた撮影や照明のテクニック、デジタル編集を学び、現場での撮影を重ねて「実物以上を伝えられるフォトグラファー」を目指します。

- **ライトノベル科**

原稿のルール／改行・句読点等の執筆基礎から、発送・構想／文章描写等の表現力を養い、短編／長編等様々な応募作品執筆で「在学中の担当付き・プロ作家」を目指します。

- **声優タレント科**

発声／発音／滑舌のトレーニングを重ね、アニメ・ゲームに命を吹き込むために必要な表現力、演技力を磨き「幅広く活躍できるエンターテイナー」を目指します。

自己評価について

1、対象期間

平成29年4月1日～平成30年3月31日

2、実施方法

- (1)校長を中心に教職員全員で評価を行なっております。
- (2)評価は年1回年度末に行ないます。
- (3)評価結果はホームページで閲覧できます。

3、自己評価項目

自己評価は以下の10項目について実施しております。

- (1)教育理念・目的
- (2)学校運営
- (3)教育活動
- (4)学修成果
- (5)学生支援
- (6)教育環境
- (7)学生の受入れ募集
- (8)財務
- (9)法令等の遵守
- (10)社会貢献・地域貢献

4、評価項目に対する評価

評価は4～1で記載しております。

4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

(1)教育理念・目的

評価項目		評価
a	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4
b	学校における職業教育の特色を示しているか	4
c	社会のニーズなどを踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
d	学科の教育目標・育成人材像は、学科などに対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか	4

状況

- a. 教育理念については、学生募集要項並びにWebサイトに明記されている。
- b. 現役のプロ講師による実践教育を行なうことを特色としている。

- c. 業界の採用担当者等からアドバイスをいただきながら、カリキュラムや実習内容等を臨機応変に変更し対応している。
- d. 科ごとに細分化した教育目標をパンフレットに明記している。

課題・改善方策

- b. 今後もさらに専門的な実践教育を行なうよう努力する。
- c. 業界と連携を図りながら、社会のニーズに合わせた科の新設を検討する。
- d. 業界のニーズをさらに把握する事も重要だが、学生の水準に合わせた教育目標を設定せざるを得ない状況だ。

(2) 学校運営

評価項目		評価
a	運営方針に沿った事業計画は策定されているか	3
b	運営組織や意思決定機能は、規則などにおいて明確化されているか、また有効に機能しているか	3
c	人事、給与に関する規程等は整備されているか	4
d	教務・財務などの組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
e	教育活動などに関する情報公開が適切になされているか	4
f	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

状況

- a. 年度ごとに策定されている。
- bd. 運営組織は組織図において明確化され、組織図も職員に配布されている。
- c. 就業規則に明記してある。
- e. 学生の活動内容等は常にホームページで公開している。
- f. 業務の効率化は以前から図られている。

課題・改善方策

- abcd. 職員への周知を徹底する。
- e. ホームページ内のブログで公開しているが、他の方法も検討する必要がある。
- f. 必要があれば改良を行う。

(3) 教育活動

評価項目		評価
a	教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
b	カリキュラムは体系的に編成されているか	4
c	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
d	関連分野の企業や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行なわれているか	3

e	関連分野における実践的な職業教育(インターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
f	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
g	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
h	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
i	関連分野における先端的な知識・技術等を修得するための研修等が教員や職員対して行なわれているか	3

状況

- abcd. 業界のニーズを踏まえてカリキュラムを作成し、教育方法も毎年改善している。学習時間も確保されているが、不足部分は特別授業や授業時間外での実習で補っている。
- e. 常に実践的な授業を多く取り入れ、夏期休業期間等を利用して企業研修等を行なっている。
- f. 授業評価は行っているが、学生からのアンケートは実施していない。
- g. 学則に明記されている。
- h. 規約に基づき教員を採用している。
- i. 職員に対しては、研修という名目では行なわれておらず、各自が知識・技術を自主的に修得しているのが現状である。

課題・改善方策

- abcd. 学生個人によって目標が違ったり能力が異なるので、基準をどこに合わせるかが毎年の課題である。より幅広い分野の業界との関連強化を行なう必要がある。
- e. 研修を受け入れていただける企業を増やす必要がある。
- f. 学生のアンケートを実施する。
- h. より高いレベルの教員を確保できるように努力する。
- i. どのような知識・技術を習得する必要があるか調査し、時間を確保して研修等を行なう。

(4) 学修成果

評価項目		評価
a	就職率の向上が図られているか	3
b	退学率の低減が図られているか	3
c	卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
d	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

状況

- a. 毎週のキャリアアップガイダンスでの指導や個別面談でのヒアリング等、学生の希望や状況に応じて早期より行なっている。また、職業紹介会社と連携し、求人情報の提供などを行なっている。
- b. 欠席者への連絡や個別カウンセリングを実施している。
- c. コンペティションでの受賞や雑誌への掲載等ある程度は把握している。
- d. 卒業生から情報を収集し、改善に活用している。

課題・改善方策

- a. 新規企業開拓等で求人数を増やし、より多くの選択肢を学生に与える等を行なうと同時に、学生の質(コミュニケーション力等)の向上を図る必要がある。
- b. 個別カウンセリングの強化や心理カウンセラーの導入、場合によっては授業料の延納等も考慮する必要がある。
- cd. 同窓会等を開催し、卒業生との交流を深める。

(5) 学生支援

	評価項目	評価
a	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
b	学生相談に関する体制は整備されているか	4
c	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3
d	学生の健康管理を扱う組織体制はあるか	3
e	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	3
f	保護者と適切に連携しているか	3
g	卒業生への支援体制はあるか	3

状況

- a. キャリアアドバイザーの資格を持つ進路(就職)担当者が、担任や講師と連携しながら支援を行なっている。職業紹介会社と連携し、求人・スキルアップ情報の提供を行なっている。
- b. 担任が個別面談を実施している。また、担任以外の教職員が学費や様々な相談に応じられるような環境を整備している。
- c. 分割納入制度や高校生グランプリ特待生奨学金制度が整備されている。
- d. 年に一度健康診断を行なっている。授業中体調が優れない場合は保健室で休憩をとる事が出来る。
- e. 学生会館や学生マンションと提携し支援を行なっている。
- f. 期末試験の結果を郵送したり、欠席が多い場合は電話連絡を行なっている。希望があれば進路について三者面談等を行なっている。
- g. 就職せずに卒業した学生や再就職の相談、求人の斡旋等を行なっている。卒業生に対して作品の添削指導等を週に1度行なっている。

課題・改善方策

- a. 進路担当者や担任が、講師や企業とより連携を強化する必要がある。より広い分野の求人提供が必要である。
- b. 定期的でも構わないので、心理カウンセラーに相談できる環境を整備する。
- c. 低所得世帯への学費の減免も考える必要がある。
- d. 保健室で休憩出来るが看護師がいないので、学校医または最寄りの診療機関と連携を強化する。
- e. 低料金で利用できる学校専用の学生寮がない。
- f. 退学者を減らすためにも、より保護者との連携が必要であり、学校行事なども知らせる必要がある。
- g. 卒業後も学校を利用しやすくするためのシステム作り等を行なう。

(6) 教育環境

	評価項目	評価
a	施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
b	学外実習、インターンシップ、海外研修について十分な教育体制を整備しているか	3
c	防災に対する体制は整備されているか	3

状況

- パソコン、インターネットやプリンター出力、その他機材は十文に対応できるように整備されている。
- 学外実習は時間と予算を確保し行なっている。インターンシップは夏期休業期間等を利用し、希望者に対して行なっている。海外研修は2年次後期に行なっている。
- 消防計画を作成し、年に1度避難訓練を実施している。また、各教室に震災時の避難場所等を掲示してある。

課題・改善方策

- パソコンやソフトを常に新しい物にする事は、予算上難しい。
- 就職を希望しているにもかかわらずインターンシップに参加しない学生がいる。海外研修は北欧に行ったが、短期間での英語の修得が難しい。
- 実際に災害が発生し帰宅困難者が出た場合、学校が指定避難所にはならないので、食料や寝具等が不足する事が不安。

(7) 学生の受入れ募集

	評価項目	評価
a	学生募集活動は適正に行われているか	4
b	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
c	学納金は妥当なものとなっているか	4

状況

- 学校外では、高校訪問を始め高校内・会場での入学ガイダンスや出張体験授業を、学校内ではオープンキャンパスや学校説明会を実施し、入学希望者が必要とする情報を適正に伝えている。
- 専門職に就くために必要な技術は何かを伝え、その技術を習得するためにどんなカリキュラムで授業が行われ、実際にどのような作品を制作しどんな所へ就職できるのかを、作品を見てもらいながら説明している。
- 同地域・同分野他校の学費を参考にしながら、少しでも入学者の負担を減らせるように協議を行い決定している。

課題・改善方策

- オープンキャンパスでの体験授業の内容や、参加者がより分かりやすい説明にするためにはどうすれば良いかなど、毎回終了後に話し合い改善している。
- 毎日ミーティングを行い、広報担当者が新しい情報を常に把握し、正確に伝えられるようにしている。
- 今後の社会情勢などを考慮しながら考える必要がある。

(8)財務

評価項目		評価
a	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
b	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
c	財務について会計監査が適正に行われているか	4
d	財務情報公開の体制は整備はできているか	2

状況

- 安定している。
- 妥当である。
- 公認会計士及び監事により適正に行われている。
- 現在財務情報は公開していない。

課題・改善方策

- 18歳人口減により、学生確保が徐々に困難になっていく可能性がある。
- ホームページで公開していく。

(9)法令等の遵守

評価項目		評価
a	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
b	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
c	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
d	自己評価結果を公表しているか	4

状況

- 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている。
- 対策はとっているが、迷惑メールによる情報の流出などは特に気をつけなければならない。
- 行っている。
- ホームページで公表している。

課題・改善方策

- 個人情報保護に関しての理解をさらに深め、教職員に対しての指導を徹底して行う。
- よりスピーディーに改善を行う必要がある。

(10)社会貢献・地域貢献

評価項目		評価
a	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
b	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3

状況

- a. 劇団への教室貸し出しや、小中学生の学校見学や体験講座などを行っている。
- b. イベントへのボランティア参加を行っている。

課題・改善方策

- a. 授業時間外に教室を使用する学生が多く、一般への教室開放・講座開講などは行えない。
- b. 特定の学生のみでの参加で、全員が参加することはない。一般的なボランティア活動への参加も促していきたい。